令和３年度　第２回自己評価の分析

設問項目	肯定的回答（%）			分　析　内　容
	生徒	保護者	職員	
【設問１】 楽しい場	９０	９１	９２	生徒・保護者・職員で９割以上が肯定的な回答しており、前回より向上している。 コロナ禍のため、感染防止に努めながら通常の活動を再開してきた。また、修学旅行・校外学習は２度の延期となったが実施できたことや分散によるフリー参観などを実施したことで改善したと思われる。今後も感染状況を踏まえ、安全に配慮し、開催方法を工夫しながら進めていく。また、引き続き生徒指導の三つの機能（生徒に自己決定の場を与える・生徒に自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する）をあらゆる教育活動の場に生かしながら、日々の活動での観察や教育相談等を通して、より一層の生徒理解に努めていく。
【設問２】 学校施設	９４	９５	８６	前回より生徒・保護者・職員とも２～３%向上している。 新しい施設、全教室のモニターやエアコン設置に加え、生徒の一人一台のタブレット設置などに伴うものと思われる。
【設問３】 情報発信	８５	８５	１００	保護者は前回より６%、職員で１４%向上した。 学校行事は昨年度より生徒のみで実施しているが、ＨＰの更新や学校だより・学級だよりの発行などで生徒の活動様子をこまめに伝えている。また、運動会や合唱コンクールではDVDの購入ができるようにした。分散によるフリー参観日を設け、生徒の活動を直接見ることができたためと思われる。現在、感染拡大に伴い、予定していたフリー参観を中止しているが、感染状況を注視しながらより充実した情報発信を行うように心がけていく。
【設問４】 地域交流	５２	５３	５７	生徒・保護者・職員で前回よりも３～９%改善している。 コロナ禍のため、例年実施していた職場体験やバザーなどは中止となったが、人数制限や競技内容の見直し、広さの確保などの工夫をしながら運動会や合唱コンクールは生徒のみで実施した。この他にも「職業人に学ぶ」・「思春期健康教室」など地域の方々に御協力いただき実施することができた。 今後も感染防止に配慮しながら「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、地域の方々との交流が深められるような取り組みを工夫していく。
【設問５】 いじめ防止	８２	７７	９７	前回と比較し生徒・保護者１%・職員で４%改善した。 毎年実施している生徒の心を大切にするアンケートやいじめアンケート、毎学期実施している教育相談の時間を活用し、いじめの早期発見・早期対応に努めているところである。 生徒会主体の「いじめゼロ集会」では学級での話し合いやシトラスリボンの作成を通してコロナ感染差別やいじめは絶対にあってはならないという意識を持たせることができた。引き続き、各種アンケートや教育相談期間の活用、日常的に生徒の様子を見ながらいじめの早期発見・早期対応に努めていく。

設問項目	肯定的回答（%）			分　析　内　容
	生徒	保護者	職員	
【設問６】 わかる授業	９０	７５	９４	前回より保護者で３%、職員で２%下回っている。 新学習指導要領の全面実施に伴い、３観点評価に変わり、生徒・保護者に評価内容を伝えてきたが、保護者にはまだ浸透しきれてていないと思われる。また、職員は生徒を見取る場面や内容を生徒に説明しながら授業を行い評価しているが浸透しきれていないことが要因と思われる。今後も授業内での評価方法などをより丁寧に説明し、「わかる授業」の展開を心がけていく。また、学力向上をさらに進めるための授業改善や、職員研修等を実施し、指導力の向上に努めていく。
【設問７】 誠実な 相談活動	８６	８５	９５	前回より生徒１%、保護者４%、職員２%の改善が見られる。 一部生徒・保護者からは職員への多岐にわたる改善要望があるが、日常的な相談はもとより、毎学期の教育相談期間、保護者については１・２学期末三者面談や進路面談などで対応しているところである。今後も生徒に対して、職員のしっかりとした人権意識と発達段階に即した確かな生徒理解に努める。また、保護者に対しては、職員の接遇マナーのあり方の確認、定期的な相談活動だけでなく、毎日の生徒や保護者との関わりをさらに大切にして、信頼関係を築いていく。
【設問８】 生徒理解 公平な評価	８５	７８	９４	保護者では前回と変化がないが、職員では２%下回った。 コロナ禍のための部活動保護者会の書面配付や生徒のみの行事開催となり、保護者との情報交換や意見を聞く機会が１・２学期の三者面談や２学期に実施したフリー参観に限られていたためと思われる。今後はさらに生徒・保護者との対話の機会を大切にし、生徒理解・信頼関係づくりに努めていく。また、評価については、客観性が高く生徒・保護者が理解しやすい評価のあり方、生徒の学習意欲を高めるための評価方法の工夫に努める。
【設問９】 教育環境	９１	８７	９５	生徒・保護者・職員すべてで改善している。 コロナ感染拡大防止の観点から体育館や清心館など特別教室の使用制限はあるが、２学期後半のフリー参観や１・２学期末の三者面談を実施した際に校内の掲示物や各教室の様子を見ていただく機会があり、前回よりも改善したと思われる。今後も生徒の作品や生徒の興味・関心を高めるタイムリーな内容を情報担当の職員が中心となって作成・掲示を行い、生徒の安全や学校生活の充実に役立つ環境整備に努めていく。
【設問１０】 授業への取組 ・時間を守る	８７	９１	９４	生徒と保護者は改善しているが、職員で６%下回っている。 検温確認や手洗い時間を確保するための登校時間や昼休み後の授業準備などに意識して生活させているが、慣れからか意識が下がったと感じている職員がいる。コロナ感染状況を踏まえ、余裕を持った時間で生活してほしいと考える。 生徒の授業への取組は概ね良好であり、今後も望ましい学習習慣の確立を図りながら、体験的・問題解決的な学習を積極的に展開し、生徒の学習意欲と学力向上に努めていく。

設問項目	肯定的回答（%）			分　析　内　容
	生徒	保護者	職員	
【設問１１】 交通ルールを守る	９４	７７	７２	保護者で２%、職員で１６%前回より下回っている。 毎年自転車による事故が数件あり、時折、地域・保護者の方々からの御指摘もいただいている現状はある。また、コロナ禍で健康観察等の対応に多くの職員が必要となり、職員による交通指導やPTA合同交通指導等に十分な人数が確保できず、指導場所や回数を減らしたためと思われる。 今後も、保護者の協力を得ながら、さらに交通安全に関する指導を強化していく。
【設問１２】 元気な あいさつ	８７	７９	９７	今年度も生活委員会によるあいさつ運動、部活動でのあいさつ・礼法の指導強化などもあり、生徒・保護者・職員すべてで前回よりも改善している。しかし、今回のアンケートの中に生徒から挨拶されなかったという意見もあったので、あいさつが定着・習慣化するように今後も継続的に指導していく。
【設問１３】 身だしなみ	９３	９５	１００	前回と同様に生徒・保護者・職員すべてで９割を上回っている。生徒の規範意識の向上が、服装や身だしなみにあらわれている。今後も清潔感のある中学生らしい身だしなみで生活できるよう指導を継続していく。
【設問１４】 清掃活動	９２	８７	８０	生徒と保護者は改善しているが、職員では６%下回っている。現在、清潔な環境を意識して清掃活動に取り組んでいる生徒が多いが、保護者アンケートの中にトイレが汚れているという意見もあり、今後はさらにきれいな環境で学習できるように職員による率先垂範を心がけながら、生徒が公共心や勤労の精神をもって意欲的に清掃活動に取る組むように清掃指導していく。
【設問１５】 保護者の参加	８４	８２	９５	生徒で６%、保護者で１３%、職員で２%向上している。 前回はコロナ禍のため、運動会、合唱コンクールの生徒のみの実施や授業参観の中止となっていたが、安全に配慮しながら２学期後半に学年別の分散フリー参観や期末三者面談を実施したことで改善したと思われる。 今後も感染状況を踏まえ、安全に配慮しながら、分散フリー参観や卒業式、次年度の運動会や合唱コンクールなどを保護者に公開できるような実施を方法を検討していく。